



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要		BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
建物名称	〔仮称〕清水入江1丁目マンション新築工事					

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.9	/5	がんばろう
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.6	/5	がんばろう
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		2.9	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>③住宅部分の昼光率0.65%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすとした。</p> <p>④タイル貼の耐用年数は40年</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑥敷地の56.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>		
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑨住戸全戸でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.96になるように一次エネルギーの消費を抑えた。</p> <p>⑩各階EPSI、各住戸の電力計がある。</p>	<p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p>		
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪便器は、従来に比べて41%分の節水ができる節水型便器を使用し、節水に配慮した。</p> <p>⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。</p>	<p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p>		
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の98%となるよう設計した。</p> <p>⑮隣等間隔指数0.86を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	<p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		2.8	
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		2.6	
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由度</p>		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑1階共用部に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。</p>	<p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		2.5	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>②景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。</p> <p>⑥敷地の56.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>		
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮隣等間隔指数0.86を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p>	<p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)清水入江1丁目マンション新築	階数	地上5F
建設地	静岡市清水区入江1丁目106-1,106-2	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	90人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	1,207㎡	作成者	早野 真介
建築面積	482㎡	確認日	
延床面積	2,099㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 これは、CASBEE静岡(2021)による評価である。		特になし
Q1 室内環境 住宅部分の屋光率0.65%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすくした。	Q2 サービス性能 各階の階高は2.96mとし、階高に余裕をもたせた。	Q3 室外環境 (敷地内) 景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。また、敷地の56.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。
LR1 エネルギー 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.96になるように一次エネルギーの消費を抑えた。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に影響を及ぼさないようにした。	LR3 敷地外環境 隣等間隔指数0.86を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される